

# 2025 年度 自己評価・学校関係者評価

認定こども園 西那須野幼稚園

本園では、教職員に対してチェック方式による自己評価を実施しております。  
認定こども園への移行に伴い、2019 年度より評価の結果を公表します。

・評価は3段階評価 [ 達成されている、概ね達成されている、未実施・取り組みが不十分 ]

| 評価項目                                                                           | 自己評価 | 取り組み内容                                                                                                                                                       |
|--------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育理念や方針の理解<br>環境構成<br>教育課程の編成と見直し<br>評価と反省                                     | 達 成  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事や季節を感じる取り組み</li> <li>・異年齢保育、混合保育</li> <li>・なかよし保育(支援児のグループ保育)</li> <li>・自由保育の充実(環境構成等)</li> </ul>                  |
| 健康と安全への配慮<br>幼児のみとりと理解<br>指導とかかわり<br>保育者同士の協力・連携                               | 達 成  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・視診、体調確認(コドモンで入力報告等)</li> <li>・感染症対策</li> <li>・避難訓練</li> <li>・年齢や発達に沿った見守り、言葉がけ</li> </ul>                            |
| 教師としての能力や適性<br>良識とマナー<br>保育の楽しみ・喜び<br>感性・周りへのアンテナ                              | 達 成  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アプリによる業務効率化の取り組み</li> <li>・意見交換</li> <li>・学期末反省会</li> </ul>                                                          |
| 保護者支援<br>情報の発信と受信<br>守秘義務の遵守<br>クレームへの対応                                       | 達 成  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・園からのおたより</li> <li>・重要事項の説明</li> <li>・アプリによる連絡・確認</li> <li>・保護者相談</li> </ul>                                          |
| 地域の自然<br>地域とのかかわり<br>小学校との連携                                                   | 概ね達成 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援、園庭開放</li> <li>・リ・ユニオンデイキャンプ</li> <li>・小学校訪問、施設等訪問</li> <li>・地域(五軒町自治会)協力による避難訓練</li> <li>・菌ちゃん野菜づくり</li> </ul> |
| 研修・研究への意欲や態度<br>専門性に関する研修・研究<br>遊具や教材に関する研修・研究<br>園の環境に関する研修・研究<br>自らを高めるための学習 | 概ね達成 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師による園内研修</li> <li>・園外研修</li> <li>・職員研修旅行(東京都、福島県)</li> <li>・専門機関との連携</li> </ul>                                   |



- ・子ども達の健康面では、冬にインフルエンザで学級閉鎖をしたクラスがあったが、大きく広がることなく過ごせた。毎日の体温計測は、保護者より入力報告をしていたくことになった。また、欠席連絡が無く登園していない園児については、速やかに朝のうちに電話等で確認出来るように心掛けた。
- ・遊びの時間が充実できるように、年少園児全体で行ってきた自由保育の時間も持ち方を工夫して2年目になり、更に内容を試行錯誤しているところである。次年度にも続けて検討していきたいと考えている。
- ・園児全体で行っている混合保育は、1学期の反省から2学期に向けて新しい取り組みが検討された。関係職員に記録と写真を配信して確認し共通理解が出来るようにした。そこから更に、子ども達の遊びが展開されていくような環境づくりを今後も心がけていきたい。
- ・カリキュラムの見直しも続けて検討し、2か月単位や季節に合わせて等で計画・反省を行ってみたが、各担任がクラス単位で行ってきたので各年齢の集団で話し合っ作っていくようなものはどうだろうと反省が出た。次年度の取り組み課題である。
- ・運動面では、子ども達が体をたくさん動かして遊べるようにと積極的に戸外遊びやホールでの遊びを行った。前年度より外部講師による指導の時間が無くなったが、保育者が今までの経験をもとに遊具・器具も活用しながら、子ども達が挑戦する機会・環境をつくった。年中・年長は週1回ずつ体育着も着用し、それによって気持ちも体を動かすことに向かい、また着替えて所持品の管理にもつながっている。
- ・学期ごとの職員反省会は、積極的な意見交換ができた。そこであがった意見や反省については、グループごとに記録して関係職員に配信をして共通理解が出来るようにした。行事の見直しは、すべてをなくすのではなく、子どもに合わせた内容に見直したい。子ども達のペースに合わせたカリキュラムが大切だと思う。等、特に近年に取り組んできたことについての反省が多くあがった。
- ・保育内容の検討を行いながら、保育者の役割や分担している仕事の内容については、まだまだ検討の余地があり、保育の準備のためにも考えていきたい。
- ・今年度も職員の研修の機会として、11月には観劇、12月には福島県の『アウシュビッツ平和博物館』に行き、館長さんより被爆について3.11の話を聴くなどし、平和に見える日々の中にある見えないものに対して考えてみる機会になった。10月には前年度に続いて市村奈緒子先生（渋谷区子ども発達支援センター）に来園していただき、『事例研究』として在園生の事例をあげて保育者同士で意見を出し合い考えることができた。
- ・幼保連携型の認定こども園としての新スタートで、どうしたらいいかと悩み・検討も必要であり時間を要した。低年齢の子ども達が入園してきたことで、安全面については特に確認・準備をした。

・保護者へのお知らせ・連絡のコドモン保護者アプリ活用が、前年以上に増えてきて連絡等がスピード化しスムーズになってきた。直接お互いの顔を見て、又は電話で声を聞いてが更に減ってきているので、その分も保護者との信頼関係・連携の為に、面談や参観日等は大切にしていきたいと思う。

今後も、子ども達に丁寧な対応を心掛けながら、保護者に寄り添っていきたい。

## 今後の課題と目標 《園長 福本 光夫》



### 今後の課題

#### 1. 保育の質の向上と継続的な改善

- 自由保育や混合保育の実践をさらに検証し、子どもの主体性や遊びの発展につながる環境構成を充実させる。
- 年齢別・発達段階に応じたカリキュラムを学年全体で協議・作成する体制を整え、共通理解を深める。

#### 2. 職員間の協働体制の強化

- 保育内容だけでなく、役割分担や業務の見直しを進め、保育準備や子どもと向き合う時間を確保する。
- 反省会や事例研究を継続し、学びを日々の実践につなげる仕組みを充実させる。

#### 3. 幼保連携型認定こども園としての体制充実

- 低年齢児の安全管理や保育環境を継続して点検・改善し、一人ひとりの発達に応じた保育を充実させる。
- 幼児教育と保育の連続性を意識した実践を積み重ねる。

#### 4. 保護者との信頼関係の深化

- コドモン等 ICT を活用した迅速な情報共有を継続するとともに、面談や参観日など直接対話の機会を大切に、保護者に寄り添う支援を充実させる。

#### 5. 健康・安全管理のさらなる徹底

- 感染症対策や登降園時の確認体制を継続するとともに、安全管理を全職員で共有し、安心して過ごせる園づくりを推進する。

### 今後の目標

- ・ 子ども一人ひとりの主体性を大切にしたい遊びと学びの環境を整え、豊かな成長を支える保育を実践する。
- ・ 職員同士が対話と協働を深め、共通理解のもとで保育の質を高め続ける。
- ・ 幼保連携型認定こども園として、乳児から幼児まで切れ目のない教育・保育を実現する。
- ・ ICT と対面での関わりを両立させ、保護者との信頼関係をさらに深める。
- ・ 研修や事例研究を積極的に取り入れ、子どもの発達理解とインクルーシブ保育の専門性を高める。
- ・ 子ども・保護者・職員が安心して過ごせる、安全で温かな園づくりを推進する。



幼稚園の先生には重要なミッションがある。こどもたちが園で目いっぱい遊んで、「あー、楽しかった！」「また明日も行きたいな」と思えることだ。また一方で、大好きな家族と一緒に家にお家にいたいという気持ちも大切にしたい。

今年度も月に一度ずつ訪れ、こどもの様子、先生の様子を継続的に観察した。その中でも、こどもたちが友達や先生とのかかわりを存分に味わう姿を見たいと楽しみにしてきた。

個人的に興味があり、ここで勤める先生たちに聞いていることがある。

「なんで幼稚園の先生になろうと思ったの？」

最も多い答えは、「自分が幼稚園に通っていた頃、先生と遊んで楽しかったから」「幼稚園生のとき、先生に憧れていたから」だった。

また、親も保育者だったという先生は、「見ていて楽しそうだったから」と答えてくれた。ちょっとくらいはみ出してもいいから、どこか味のある保育をこれからも期待している。

私はこれまで、こどもたちが赤ちゃんの頃からかかわり、その親ともかかわり、行動観察によって愛着に注目してきた。関係は長期にわたり、この園でも未就園児の頃から中学生、高校生になるまでやり取りが続いている親子がいる。

子育ての根本をたどれば、それは親子の愛着関係に極まる。例えば面談の時、私は親が子を本当にかわいいと思っているかどうかをみる。

親：手がかかってとても大変…でもやっぱりかわいいよね

子：やんちゃをする…でもやっぱりママ・パパのところがいい、落ち着く

すべてが目まぐるしく変わっていく時代だからこそ原点に立ち返り、心の絆を幼児教育に取り入れて生かしてほしい。また、自身にも言えることだが、物事を決めつけ過ぎず、「いままでの●●って本当にそうなの？ 本当に？ 本当に？」と、支援者としていつも心に問いかけてほしい。

